

事務事業評価シート

(平成 24 年度実施事業)

事務事業名	盛岡駅前周辺交通改善計画策定事務事業			事業コード	2104
所属コード	087000	課等名	建設部 交通政策課	係名	交通計画係
課長名	片岡 修	担当者名	吉田 大輔	内線番号	2765
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	快適な都市機能	コード	7
	施策	都市活動を支える交通環境の構築	コード	8
	基本事業	総合交通体系の確立	コード	1
予算費目名	一般会計 2 款 1 項 6 目 交通施策推進事務（009-01）			
特記事項				
事業期間	☐ 単年度 ☐ 単年度繰返 ☒ 期間限定複数年度		開始年度	平成 17 年度
根拠法令等	なし			

(2) 事務事業の概要

盛岡駅前周辺交通改善計画の策定

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

平成 17 年度末に不来方橋の開通し，その後の杜の大橋の開通や盛岡駅青山町線の国道 46 号線アンダーパスの開通により，盛岡駅前の交通が変化すること，また，盛岡駅前 T 時路における歩行者の平面移動やタクシープールからの開運橋方向への右折等，様々な課題について改善を行うため盛岡駅前周辺交通改善計画連絡会を組織して対策の検討を始めた。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

平成 19 年度において，盛岡駅前 T 字路南側を歩道とする案，バスタクシー専用とする案を示し盛岡駅前周辺交通改善計画連絡会において関係各団体より意見を聴取したが，全体の合意に至らず，改善計画の策定を中断した。しかし，その後も，駅前丁字路を中心とした交通改善を行うべきとの声が寄せられている状況にある。

一方，平成 23 年には，盛岡駅南大橋線や明治橋大沢川原線などの都市計画道路が暫定供用されており，盛岡駅周辺の交通に影響が生じている可能性がある。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）対象（誰が，何が対象か）

盛岡駅周辺の交通（一般車両・バス・タクシー・歩行者・自転車）

（2）対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 見込み
A 宴工房じょ居前，ホテルルイズ前の自動車の交通量	台/9h	3,456	4,254	4,254	4,777	－
B 宴工房じょ居前，ホテルルイズ前の歩行者の通行量	台/9h	7,231	7,548	7,548	8,679	－
C 宴工房じょ居前，ホテルルイズ前の自転車の通行量	台/9h	1,347	697	697	920	－

（3）24 年度に実施した主な活動・手順

盛岡駅周辺の交通量を調査し，シミュレーションを活用した交通予測を行う。また，H25 年度以降の対策の検討を行う。

（4）活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 盛岡駅前周辺交通改善計画連絡会及び関係機関協議	回	0	0	1	1	－
B 盛岡駅前周辺の交通量調査等	回	1	1	1	1	－
C						

（5）意図（対象をどのように変えるのか）

盛岡駅周辺の交通の円滑化

（6）成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 盛岡駅前周辺交通改善計画の策定	☒ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持	%	0	0	0	0	100
B	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						
C	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	22 年度実績	23 年度実績	24 年度計画	24 年度実績
事業費	①国	千円	0	0	2300	1663
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	0	0	2300	0
	⑤その他()	千円	0	0	0	1665
	A 小計 ①～⑤	千円	0	0	4600	0
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	20	20	400	500
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	80	80	1600	2000
計	トータルコスト A+B	千円	80	80	6200	5328
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

盛岡駅前周辺の交通体系を確立し適正な自動車交通の確保や公共交通機関、自転車の利便性向上と利用促進及び歩行環境の向上を図ることにより、都市活動を支えるより良い交通環境を構築することになり、上位基本計画の意図と結びついている。

② 市の関与の妥当性

社会基盤である都市活動をさせる交通環境を構築する事業であり、市民全体の利便性向上からも基本的に市が行うべき事業である。

③ 対象の妥当性

盛岡駅は中心市街地へ連絡する当市の玄関口であり、あらゆる交通が集中していることから、盛岡駅周辺の交通（一般車輛・バス・タクシー・歩行者・自転車）全体を対象とすることは妥当である。

④ 廃止・休止の影響

盛岡市の重要な交通の結節点における課題であり、改善を図る必要性が高く、計画検討を取りやめることは妥当でない。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

もりおか交通戦略における歩いて楽しむ中心市街地形成戦略との整合を図ることにより、より実効性の高い計画とすることが期待できる。

(3) 公平性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

社会基盤である都市活動を支える交通環境の構築であり、不特定多数の市民が対象になることから、公平である。

(4) 効率性評価

平成 24 年度の現況交通調査のうち一部調査を市直営として実施したことにより、事業費の削減を図ることができた。シミュレーション調査についても、職員が機器を操作できるように、業務委託を通じ習得したことから、今後の委託費の削減を図ることが出来る。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

盛岡駅南大橋線及び明治橋大沢川原線が暫定供用されたことを受け、盛岡駅周辺における交通流の変化を把握し、その結果を踏まえながら、平成 28 年の岩手国体までに行うべき事業、その後も継続すべき事業を検討し、盛岡駅前周辺交通改善計画連絡会を再開し、改善計画の策定を行う。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

駅前交通に関わる関係者の合意形成が課題であるが、利用者視点に立った検討がなされるよう、盛岡駅前周辺交通改善計画連絡会において調整を行う。

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- ☐ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☒ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

平成 24 年度は、盛岡駅周辺の交通量を調査し、シミュレーションを活用した交通予測に取り組んだことは評価できる。

盛岡駅前周辺交通改善連絡会を再開して、関係者の合意形成を図り、平成 28 年の岩手国体までに行う事業、その後も継続する事業の検討する。